

利尻島におけるメジロガモの観察記録

西島一樹

〒097-0101 北海道利尻郡利尻富士町鴛泊字栄町 日本野鳥の会道北支部・支部会員

First Record of the Ferruginous Duck *Aythya nyroca* at Rishiri Island, Northern Hokkaido

Kazuki NISHIJIMA

A member of Do-hoku branch of Wild Bird Society of Japan, Sakaemachi, Rishirifuji, Hokkaido, 097-0101 Japan

Abstract. A pair of Ferruginous Duck, *Aythya nyroca*, were observed at 29th April, 2021 on the marsh "Ootadomari-numa", southern Rishiri Island, Hokkaido. This is the first observational record of this species from Rishiri Island, and the fifth record from Hokkaido.

メジロガモ *Aythya nyroca* は、主にヨーロッパ東部、中近東、チベットで繁殖し、北アフリカ、ナイル川流域で越冬する（真木ほか、2014）。日本では主に本州、四国、九州、八重山、大東諸島で記録がある迷鳥である（真木ほか、2014）。2021年4月に、筆者は利尻島南部に位置する沼浦地区のオトマリ沼で、メジロガモと思われる2個体の観察および撮影を行った。本種の北海道での記録は5例目で（篠原、2009、2018；長谷部ほか、2021）これまで同島から記録もないため（小杉、2000；小杉ほか、2005；風間・小杉、2007；村上、2011；田牧、2013、2017、2019、ほか）、利尻島初記録となった。ここにその詳細を報告する。

筆者は、2021年4月29日午前10時過ぎに利尻富士町オトマリ沼で休憩しているメジロガモと思われる2個体を確認した。ヨシ *Phragmites australis* の中で休憩しており、詳細な観察および写真撮影が困難だったため、これらの個体が活動を始めるまで観察を続けた。観察時のオトマリ沼の天候は晴れで風もなく、開放水面には、ウミネコ *Larus crassirostris* や、カルガモ *Anas zonorhynchos*、マガモ *An. platyrhynchos*、コガモ *An. crecca*、ハシビロガモ

An. clypeata、ヒドリガモ *An. penelope*、キンクロハジロ *Ay. fuligula* などのカモ類の他、岸辺にはセイタカシギ *Himantopus himantopus* やキセキレイ *Motacilla cinerea* などが確認できた。観察中は、トビ *Milvus migrans* やオジロワシ *Haliaeetus albicilla* の飛来、観光客の接近などによりこれらの鳥は常に騒がしく動いていたが、メジロガモと思われる2個体についてはヨシの中から動くことはなかった。

午後4時前、メジロガモと思われる2個体が活動を始めたので、詳細な観察と写真撮影を行った（図1、2）。これらの個体は、頭部から胸部にかけて紅褐色で、背から上尾筒、尾にかけては黒褐色、下尾筒が白色という特徴（高野、2007）から、メジロガモであることが確認された。2個体のうちの1個体は、頭胸部に鮮やかな紅色味があり、白色の虹彩を持つことから雄と判断され、別個体については、雄個体の頭胸部に比して色味がくすみ、虹彩も褐色を呈していたので雌と思われた。永井・茂田（2020）によると、メジロガモの国内への渡来は雄が多く、雌の記録はごく稀とされる。なお、本種についてはアカハジロ *Ay. baeri* やホシハジロ *Ay. ferina* との雑種が確認されているが（氏原・氏原、2015）、本稿ではその詳細な検討は行わなかつ



図1～2. メジログガモ (2021年4月29日, 利尻富士町オタマリ沼), 1:雄, 2:雄(左)と雌(右).

たものの、今回観察されたいずれの個体でも、嘴の黒斑が小さく、頭部に緑色味が見られない、などの特徴が確認されている。これらの個体は、2分間ほど湖面上を移動し、沼の奥に入って姿が見えなくなったため観察を終了した。

翌4月30日、筆者はオタマリ沼を含めた利尻島にある5か所の淡水域で観察を行ったが、メジログガモの姿は無かった。この日の天候は雨で風もあり、気温が低かったためその他のカモ類の姿も見当たらなかった。

北海道におけるメジログガモの記録のうち、豊富町での1例は4月上旬の記録で(長谷部ほか, 2021)、本稿の記録と時期が同じである。今後もこの時期に飛来する可能性があるので、観察を続けていきたい。

本報告の作成に当たり、利尻島自然情報センターの小杉和樹氏には種の同定を、NPO法人サロベツ・エコ・ネットワークの長谷部真氏には、貴重な文献の提供をいただいた。ここに厚くお礼を申し上げる。また、取りまとめに際し、利尻町立博物館の佐藤雅彦氏には多大な助言をいただいた。重ねてお礼を申し上げる。

参考文献

長谷部真・富士本寿彦・先崎理之, 2021. 豊富町におけるメジログガモの観察記録. 利尻研究, (40): 29-31.
 風間健太郎・小杉和樹, 2007. 利尻島におけるサンショウクイの観察記録. 利尻研究, (26): 21-22.

小杉和樹, 2000. 利尻島における月別鳥類出現リスト. 寺沢孝毅(編), 北海道島の野鳥: 150-155. 北海道新聞社. 札幌.

小杉和樹・田牧和広・佐藤雅彦, 2005. 利尻島における鳥類の新分布および希少種の記録(3). 利尻研究, (24): 05-09.

真木広造・大西敏一・五百澤日丸, 2014. 日本の野鳥650. 平凡社. 788pp.

村上賢治, 2011. 利尻島におけるミゾゴイの初記録. 利尻研究, (30): 01-02.

永井真人・茂田良光, 2020. 鳥くんの比べて観察! 野鳥図鑑670第3版. 文一総合出版. 399pp.

篠原盛雄, 2009. 伊達市長流川でのメジログガモの観察報告. 北海道野鳥だより, (157): 10.

篠原盛雄, 2018. メジログガモの長期滞在. 北海道野鳥だより, (193): 12.

高野伸二, 2007. フィールドガイド日本の野鳥. 日本野鳥の会. 374pp.

田牧和広, 2013. 利尻島における鳥類の新分布の記録(2012年). 利尻研究, (32): 07-10.

田牧和広, 2017. 利尻島における鳥類の新分布の記録(2016年). 利尻研究, (36): 13-15.

田牧和広, 2019. 利尻島における鳥類の新分布の記録(2017-2018年). 利尻研究, (38):63-66.

氏原巨雄・氏原道昭, 2015. 決定版日本のカモ識別図鑑. 誠文堂新光社. 東京. 303pp.